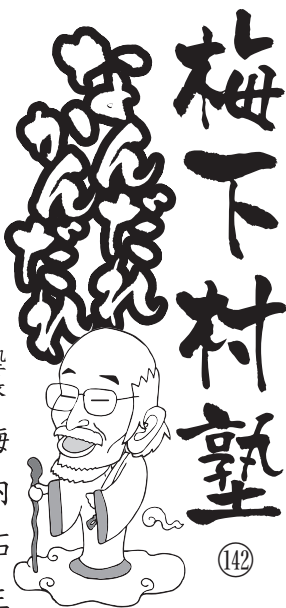


# 「森と水と命の惑星」国際会議

## ～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

(PM2.5と現代社会)

空気中への大量の微粒子の放出と健康への影響が世界の関心を呼んでいる。北京市はこのPM2.5の大気濃度が警戒レベルの10倍以上と報告されている。今までは季節風に乗って中国から日本に黄砂が飛来しているが、これからは粒子サイズの小さいPM2.5への警戒が必要になっている。

本と米国の協力で打ち上げが成功した気象衛星はPM2.5などの微粒子の動向をモニターでき、微粒子対策に大きく貢献することが期待されている。急激な工業化を目指してきている中国が先頭に立って引き起こしている地球レベルの大気中微粒子汚染の現状と対応への責任を、国際法的に決着済みの戦後賠償と絡ませて足を引っ張っていることは極めて無責任な政治行動である。世界の人口はここ100年で、4倍以上に膨れ上がっている。文明生活の利便性はエネルギーの利用と消費に依存している。

消費は地球の生態系で人間が生存できる限界をはるかに超えていることを報告している。しかし人間社会はいろいろな既得権のぬるま湯から抜け出るのが難しい。世界の政治制度にはこれが歴然としている。第2次世界大戦の戦勝国が戦争が終わって70年もの間、敗戦国条項を温存しており、それに戦勝国の5大国が安保理事会の常任理事国として拒否権を有している。この制度のくびきから解放されないと現代社会の難問はタライ回しの中にとらわれてしまい身動きができない。竹島、尖閣の領土問題をはじめ、公海での漁業権、貿易での関税の問題、特許権の問題など、大国の既得権を振りかざしての横暴が目につく。

(PM2.5と現代社会)、これは人類社会に突き付けられた深刻な課題である。3・11の東日本大震災で世界が感動した忍耐と規律は縄文蝦夷から引き継いだ歴史と伝統から生み出されたものである。梅下村塾はこれを世界と共有する文化価値の創造としてメッセージを発信したい。

(古代ギリシャと気仙文化)

ポリスとは 格差社会の 始まりか

討論が必要だけれど声はなし

通るのは声の大きい意見のみ

必要な議論はなされず復興へ

第一中学生 悔しさに 次はと思う 先輩の 歌う姿勢を 心に刻み

校庭の 仮設に届けと 心込め 野分の道を 返らす歌声

現代の複雑な社会問題が吹き荒れております。それだけに心を豊かにして社会に対応しなければなりません。

古代ギリシャは民主主義の文化の芽を生み出した。しかし格差社会であったことも事実です。圭一さんは民主主義の芽生えの世界と現代社会をつなげて詠んでおります。

第一中学校の生徒は歴史と伝統文化を生んだ気仙地域を魂と心で包み返しております。

返句 歴史超え 気仙の魂 海渡る

(東海新報記事から) 現在世界は人類の存続のために協力して立ち上がらなければならぬ事態に遭遇している。世迷言は韓国の「告げ口外交」や中国の「押しつけ宣伝外交」の批判を述べてきた。

2月25日の第1面に「起業目指す市民後押し」『なりわい未来塾』が開校 大船渡』の記事が掲載されている。気仙地方のこの「なりわい未来塾」こそ「告げ口外交」や「押しつけ宣伝外交」を包み込む事業になるものと期待する。